

## 2022年10月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)



2022年9月13日

東

上場会社名 株式会社CINC

上場取引所

コード番号 4378

URL https://www.cinc-j.co.jp/

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 石松 友典

問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営管理本部長 (氏名) 雨越 仁 (TEL) 03-6822-3601 (代表)

四半期報告書提出予定日 2022年9月13日 配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2022年10月期第3四半期の業績 (2021年11月1日~2022年7月31日)

## (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年10月期第3四半期	1,320	41.6	213	30.0	212	30.4	139	30.5
2021年10月期第3四半期	932	—	164	—	162	—	107	—
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
2022年10月期第3四半期	41.96		38.91					
2021年10月期第3四半期	35.72		—					

- (注) 1. 2020年10月期第3四半期については、四半期財務諸表を作成していないため、2021年10月期第3四半期の対前年同四半期増減率を記載しておりません。
2. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、2021年10月期第3四半期において当社株式は非上場であり、期中平均株価が把握できないため記載しておりません。
3. 当社は、2021年5月12日を効力発生日として普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っておりますが、2021年10月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して「1株当たり四半期純利益」を算定しております。

## (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年10月期第3四半期	1,924	1,436	74.6
2021年10月期	1,889	1,294	68.5

(参考) 自己資本 2022年10月期第3四半期 1,436百万円 2021年10月期 1,294百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年10月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2022年10月期	—	0.00	—	—	—
2022年10月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2022年10月期の業績予想 (2021年11月1日~2022年10月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,736	32.2	239	18.5	237	24.7	150	16.5	45.34

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用に関する注記

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

会計方針の変更に関する注記

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2022年10月期3Q	3,361,450株	2021年10月期	3,328,000株
-------------	------------	-----------	------------

② 期末自己株式数

2022年10月期3Q	一株	2021年10月期	一株
-------------	----	-----------	----

③ 期中平均株式数（四半期累計）

2022年10月期3Q	3,333,747株	2021年10月期3Q	3,000,000株
-------------	------------	-------------	------------

(注) 当社は、2021年5月12日を効力発生日として普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っておりますが、2021年10月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、発行済株式数を算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(会計方針の変更)	6
(追加情報)	6
(セグメント情報等)	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の感染者数再拡大の影響や、原油価格高騰等によるコスト増、為替変動の影響等もあり、依然として先行き不透明な状況が続いております。

一方で、当社が展開するサービスを取り巻く環境は、インターネット、スマートフォン、SNSの普及によりデジタルチャネルでの購買が一般化してきたこと、新型コロナウイルス感染症拡大によりオフラインでのマーケティング活動が制限されたこと等により、企業のマーケティング活動のデジタルシフトが続いており、当社が事業を展開するDXコンサルティングや「Keywordmap」シリーズ等のデジタルマーケティングを支援するサービスへの需要は引続き拡大傾向にあり、堅調な成長を続けております。また、さらなる成長に向けた人員強化も進めております。

このような経営環境のもと、当第3四半期累計期間の売上高は1,320,418千円（前年同期比41.6%増）、売上総利益は956,924千円（前年同期比44.3%増）、営業利益は213,314千円（前年同期比30.0%増）、経常利益は212,421千円（前年同期比30.4%増）、四半期純利益は139,883千円（前年同期比30.5%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は以下のとおりになります。

報告セグメントごとの業績をより適切に評価するため、前第4四半期会計期間より共通費の配賦方法を変更しております。前年同期比較については前年同期の数値を変更後の算定方法に基づき作成したものを記載しております。

#### (ソリューション事業)

ソリューション事業においては、「Keywordmap」の営業部員の増員及び人材育成が進んだこと、展示会の出展、オウンドメディア「Keywordmap Academy」やウェビナーを活用したマーケティング施策などが順調に進捗しており、新規案件の獲得が堅調に推移しました。一方、カスタマーサクセスチーム1人当たりの担当件数が増加したことにより、十分なサポート・サクセス支援品質を提供できなかったことを要因として解約率が上昇していましたが、人員の拡充や業務効率化の施策が功を奏し、解約率は低下に転じました。

「Keywordmap for SNS」についても、営業部員の増員及び人材育成が進んだことにより、新規案件の獲得が順調に推移しました。また、解約案件減少のため、カスタマーサクセスチームの体制の強化を行いました。さらに、「全量ツイート分析投稿タイプ別分類機能」等、ユーザーの生産性向上及び成果創出に寄与する機能を実装しました。

その結果、当セグメントの売上高は646,255千円（前年同期比40.4%増）、セグメント利益は147,777千円（前年同期比70.0%増）となりました。

#### (アナリティクス事業)

アナリティクス事業においては、営業部員の増員及びウェビナーやSNSを活用したマーケティング施策が順調に推移したことにより、新規獲得案件が増加しました。また、コンサルタントやデータアナリストの人員増加や育成体制の強化が進んだことや、動画マーケティングコンサルサービスがYouTube ShortsやTikTokなどの短尺動画にも対応したことで、契約件数、月額顧客単価ともに増加しました。

その結果、当セグメントの売上高は685,701千円（前年同期比42.6%増）、セグメント利益は65,537千円（前年同期比15.0%減）となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

#### (資産)

当第3四半期会計期間末の資産につきましては、前事業年度末に比べて34,692千円増加し、1,924,067千円となりました。これは主に、受取手形及び売掛金の増加(前事業年度末比40,657千円の増加)によるものであります。

#### (負債)

当第3四半期会計期間末の負債につきましては、前事業年度末に比べて106,930千円減少し、487,645千円となりました。これは主に、借入金の減少(前事業年度末比71,145千円の減少)、未払法人税等の減少(前事業年度末比48,527千円の減少)によるものであります。

(純資産)

当第3四半期会計期間末の純資産につきましては、前事業年度末に比べて141,622千円増加し、1,436,422千円となりました。これは、利益剰余金の増加(前事業年度末比139,883千円の増加)によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年10月期の業績予想については、2021年12月9日の「2021年10月期 決算短信」で公表いたしました通期の予想数値に変更はございません。

今後、経営環境等の変化により業績予想の見直しが必要と判断した場合には、速やかに開示してまいります。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2021年10月31日)	当第3四半期会計期間 (2022年7月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,603,870	1,481,325
受取手形及び売掛金	142,560	183,218
その他	27,568	27,490
貸倒引当金	△514	△659
流動資産合計	1,773,485	1,691,373
固定資産		
有形固定資産	14,315	6,790
無形固定資産	45,762	75,746
投資その他の資産		
敷金	24,361	126,772
その他	31,862	24,068
貸倒引当金	△412	△685
投資その他の資産合計	55,811	150,156
固定資産合計	115,890	232,693
資産合計	1,889,375	1,924,067
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	39,092	44,530
1年内返済予定の長期借入金	92,814	81,678
未払法人税等	85,488	36,961
賞与引当金	36,526	21,729
その他	183,232	211,133
流動負債合計	437,154	396,033
固定負債		
長期借入金	151,621	91,612
資産除去債務	5,800	-
固定負債合計	157,421	91,612
負債合計	594,575	487,645
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	474,710	475,592
資本剰余金	464,710	465,592
利益剰余金	355,120	495,003
株主資本合計	1,294,540	1,436,187
新株予約権	259	235
純資産合計	1,294,800	1,436,422
負債純資産合計	1,889,375	1,924,067

## (2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自2020年11月1日 至2021年7月31日)	当第3四半期累計期間 (自2021年11月1日 至2022年7月31日)
売上高	932,806	1,320,418
売上原価	269,544	363,494
売上総利益	663,261	956,924
販売費及び一般管理費	499,185	743,609
営業利益	164,076	213,314
営業外収益		
受取利息	2	6
受取手数料	580	400
還付加算金	164	-
その他	101	12
営業外収益合計	848	418
営業外費用		
支払利息	2,006	1,307
その他	15	5
営業外費用合計	2,021	1,312
経常利益	162,903	212,421
特別利益		
資産除去債務履行差額	-	4,358
特別利益合計	-	4,358
特別損失		
固定資産売却損	122	73
特別損失合計	122	73
税引前四半期純利益	162,780	216,706
法人税、住民税及び事業税	61,931	68,800
法人税等調整額	△6,311	8,022
法人税等合計	55,619	76,823
四半期純利益	107,160	139,883

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

これにより、一部の取引について、従来は、顧客から受け取る対価の総額を収益として認識していましたが、顧客への財又はサービスの提供における当社の役割が代理人に該当する取引については、顧客から受け取る額から取引先に支払う額を控除した純額で収益を認識することとしています。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。この結果、当第3四半期累計期間の売上高及び売上原価が22,193千円減少しております。また、利益剰余金の当期首残高への影響はありません。

なお、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第3四半期累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。これによる四半期財務諸表への影響はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の拡大に関する会計上の見積りについて)

前事業年度の有価証券報告書の(追加情報)(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り)に記載した会計上の見積りにおける新型コロナウイルス感染症による影響に関する仮定について重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

前第3四半期累計期間(自 2020年11月1日 至 2021年7月31日)

## 1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期損益 計算書計上額 (注) 2
	ソリューション 事業	アナリティクス 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	452,037	480,695	932,732	73	932,806
セグメント間の内部売上高 又は振替高	8,320	—	8,320	△8,320	—
計	460,357	480,695	941,052	△8,246	932,806
セグメント利益	86,909	77,093	164,003	73	164,076

(注) 1. 「調整額」の区分は、セグメントに帰属しない売上高73千円、セグメント間取引消去△8,320千円を含んでおります。

2. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期累計期間(自 2021年11月1日 至 2022年7月31日)

## 1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期損益 計算書計上額 (注) 2
	ソリューション 事業	アナリティクス 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	634,716	685,701	1,320,418	—	1,320,418
セグメント間の内部売上高 又は振替高	11,538	—	11,538	△11,538	—
計	646,255	685,701	1,331,957	△11,538	1,320,418
セグメント利益	147,777	65,537	213,314	—	213,314

(注) 1. 「調整額」の区分は、セグメント間取引消去△11,538千円を含んでおります。

2. 会計方針の変更に記載のとおり、第1四半期会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、報告セグメントの利益又は損失の算定方法を同様に變更してあります。この変更によるセグメント売上高への影響額は、アナリティクス事業において22,193千円であり、セグメント利益への影響はありません。

なお、報告セグメントごとの業績をより適切に評価するため、前第4四半期会計期間より共通費の配賦方法を変更してあります。そのため、前第3四半期累計期間のセグメント情報については、変更後の算定方法に基づき作成したものを記載してあります。

3. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。